

Ⅲ 現在の河川環境

【原則1: 着目すべき「重要な種」の抽出】

- ① 特定種(兵庫県、環境省RDB種)、分布域の狭い種及び専門家が重要性を指摘する種。
- ② 河川の区域を主たる生活空間とする種。

* ①と②の両方を満たす種を着目すべき「重要な種」と位置づけた

Ⅲ 現在の河川環境

【原則1: 着目すべき「重要な種」】

- 魚類19種(シロヒレタビラ他)
- 底生動物38種(トゲナベブタムシ他)
- 植物24種(サツキ、アオヤギバナ他)
- ほ乳類7種(カワネズミ他)
- は虫類2種(ニホンスッポン他)
- 両生類3種(オオサンショウウオ他)
- 鳥類17種(ミサゴ他)
- 昆虫類22種(アオハダトンボ他)



Ⅲ 現在の河川環境

ユニット：河川を500mで区切った区間の単位

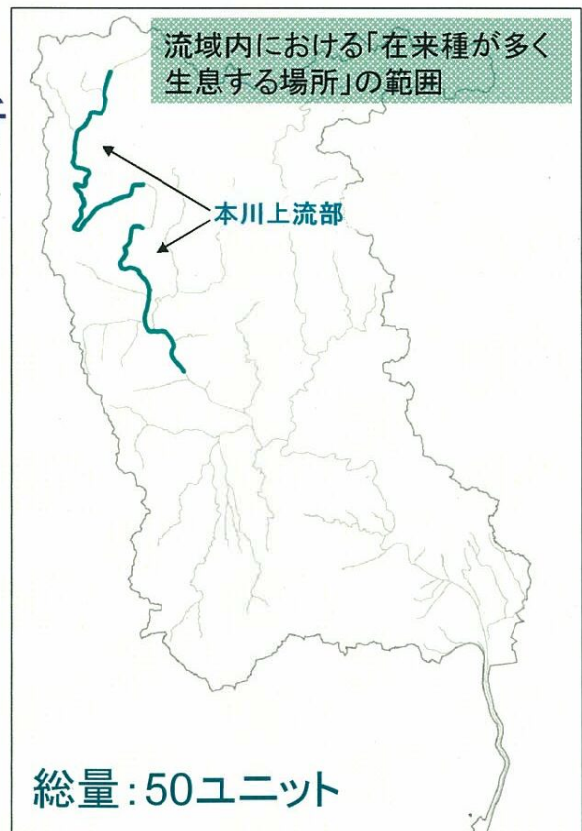
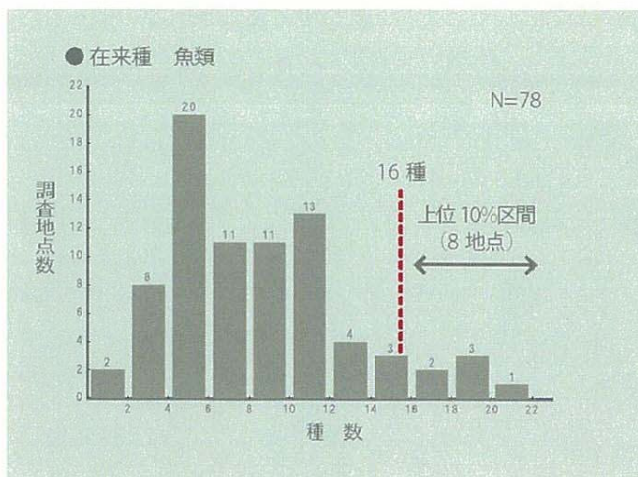
【原則2：優れた「生物の生活空間」】

河川環境の視点	優れた「生物の生活空間」の項目	総量
1. 水温	1-1 冷水性種が多く生息する場所	43ユニット
2. 森と川の連続性	2-1 川と接する森林の多い場所	59ユニット
3. 流れの多様性	3-1 多様な生物を育む瀬と淵の多い場所	18ユニット
4. 出水時の攪乱	4-1 攪乱で維持される礫原草原	4ユニット
	4-2 攪乱で維持される溪谷の河辺・岩上植物群落	14ユニット
5. 生息場所の広がり	5-1 広がりのある低層湿原とヤナギ林	14ユニット
	5-2 広がりのあるオギ群集	35箇所
	5-3 広がりのある河畔林	3箇所
6. 多様性	6-1 在来種が多く生息する場所	魚類:50ユニット 底生動物:57ユニット
7. 希少性	7-1 重要な種の生息の核となる場所	魚類:71ユニット 底生動物:90ユニット

Ⅲ 現在の河川環境

6-1 在来種が多く生息する場所 (魚類)

* 在来種の種数により評価



Ⅲ 現在の河川環境

【配慮を検討すべき「生物の生活空間」】

河川環境の視点	配慮を検討すべき「生物の生活空間」の項目
1. 水質	1-1 耐汚濁性種が多く生息する場所
2. 流れの分断	2-1 海と川の連続性を確保すべき場所
	2-2 川の連続性を確保すべき場所
3. 水辺の改変	3-1 コンクリート護岸の割合が多い場所
	3-2 礫原草原を確保すべき場所
4. 外来性	4-1 外来植物群落が侵入している場所
	4-2 外来性魚類が侵入している場所

Ⅲ 現在の河川環境

2-1 海と川の連続性を確保すべき場所

* 汽水・回遊種の種数により評価

